

家具の街大川で

永く人の役に立ちたい

家具工房 樫ゆずりは

代表 中村 大介 さん

住所：大川市大字向島1739
TEL：0944-881-9281
HP：https://www.yuzurha2016.com/

今月の夢追い人は、家具工房樫の中村さんにお話を伺いました。

家具工房樫は、創業して5年目の木工所です。素敵な響きの屋号ですが、こだわりの木はあったのでしょうか。

「樫という木は、新しい葉が出てから古い葉が落ちる特徴があります。それを家に例えて、代々続いていきますようにと正月の鏡餅に敷く葉に使われたりと、とても縁起がいい木なんです。私が作った家具も世代を超えて、何代にも渡って使ってもらえるようになればいいなという願いから『家具工房樫』と名付けました」

もともと大川市ではなく、熊本県人吉市ご出身の中村さん。

卒業後しばらくは、地元で働かされていたとのこと。「まずは地元・人吉の木工所で働き始めました。それからみやま市の木工所に転職しました。大きな木工所だと工程ごとの担当者がある場合もありますが、そこは家具の製造工程の一から十までを自分で製造することが基本の木工所だったので、なんでもできるようになりましたね」

人吉の木工所で働いている頃から、海外の家具製造現場を見てみたいと思われていた中村さん。実際に海外留学をされたこともあるそうです。

「家具製造に携わってすぐの頃から、海外で勉強したい気持ちがありました。就職してから3年働いたら、ちよっと海外の現場を見に行きたいな



ロッキングチェア和紙縫り編み漆塗り



と漠然と夢を抱いていましたね。それからワーキングホリデー制度を利用して海外へ家具製造の勉強に行きました。ドイツのデュッセルドルフとベルリンの家具製作所で、見習いとして現場で勉強させてもらいましたね」

国内外の家具製造の現場で学ばれてきた中村さん。そんな中村さんが、家具製造に興味をもたれたきっかけはなんでしょうか。

「学生時代は熊本市で過ごしていました。その頃にイギリスのアンティーク家具を扱うお店でアルバイトをしたことがきっかけですね。そこで製造はされていませんでしたが、修理をする職人さんがいて、カッコいいなと思ったことが

この道に進む大きな要因だったと思います」

家具製造に携わられて22年以上になるとも話された中村さんですが、いま現在はどういったものを製造されているのでしょうか。

「独立してからは椅子をメインに製造販売をしています。1人でなんでも作れます！では、売り文句としては弱い気がして、椅子に特化したオーダー家具製造を強みにしようと思いました。起業してから毎年開催しているギャラリー等の展示会では毎回変わらぬ『木の椅子展』というメインタイトルで新作をお披露目しています。以前の職場では箱物、テーブルなども製造していましたので、もちろんお客

様からご要望があれば椅子以外も製造します」

【好きこそものの上手なれ】が信条であり、家具づくりが好きだからこそ上達も早く、長い間続けてこられたとも話された中村さん。では地元ではない大川市で創業するに至った決め手などはあったのでしょうか。

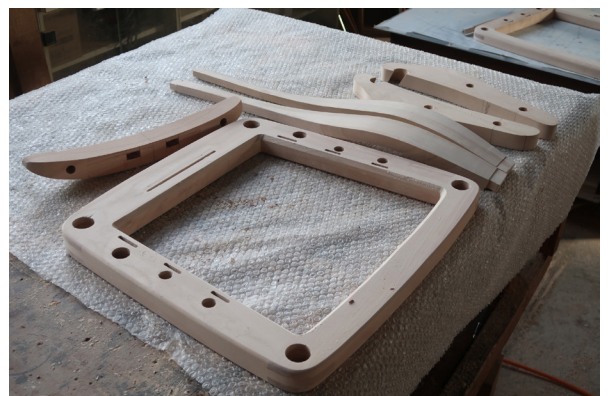
「大川市の空き店舗、工場登録情報から木工機械の揃った物件を教えていただいたことでした。物件を見学してすぐここに起業することを決めました。商工会議所で開催されている創業塾に参加し、創業に関する様々な勉強ができたことは家具製造以外の職歴のない私にとってはいろいろ参考になりました。もちろん家賃や設備への創業支援補助金も決め手になりました。近隣に材木や漆などの専門店が揃っているなど、立地面でもすごく良かったですね。家具の産地といえど、周辺でこれほど簡単に揃うところは他にないと思います。逆に不思議な街だなあとも思いますね。他の地域では1店舗しかないような専門店が近隣にあるなんて、家具製造をするうえで大川は恵まれた地域だなと感じました」

では、実際に創業をしてからの困ったことなどもあったのでしょうか。

「創業するまでは職人として、家具を作ることにしかやってきていませんでした。いまは身を持って、お客様に売ることの大変さを実感しています。特に昨年は思ったように対面販売が出来なかったり、展示会そのものが中止になったりと売ることに関する苦労を感じることが多かったですね。こういったご時世なので、すぐに元通りとはいかないと思います。これからはネット販売にも力を入れていけたらと思いますね。また創業1年目から大川木工まつりに出展していました。今月開催予定の春の木工まつりにも出展予定です。新型コロナウイルス感染症対策もしっかり行っただうえで、お客様に実物を見て触って楽しんでいただきたいですね」

職人としてだけでなく、商人としての経験を重ねられた中村さん。そんな中村さんの夢はなんでしょうか。

「独立・創業したなかで、やはり作ったものを売ることの難しさを何度も感じました。頭の中では、ああいうものを作りたいと描いていましたが、



実際にお客様に見てもらわなければ売れるものも売れません。それまでは完璧だと思っていたものも、客観的に見て180度方向性が変わった家具もありました。必ずしも100%の状態で見てもらうのではなく、人の意見を聞きながら改善していくこと、それから人の役に立てるものがあるかが大切だと思います。いまはデザインを起こすときはどのように人の役に立つかを始めに考えますね。今後はものづくりだけではなく、家具工房棟として、何かしら人の役に立てることを続けていきたいらなと思っています」



ラウンジチェア漆塗り